

令和4年度  
地域提案型交通安全支援事業運営支援業務  
事業報告書

令和5年2月

内閣府政策統括官（政策調整担当）

# 目 次

## I. 令和4年度 地域提案型交通安全支援事業 実施概要

1. 事業の目的	1
2. 事業の概要	1
3. 実施地区概要	2

## II. 実施地区の報告

1. 兵庫県 太子町	3
2. 徳島県	15

資料	29
1. 事前打合せ資料	30
2. 実施マニュアル (例)	37
3. アンケート調査票	
(兵庫県太子町)	49
(徳島県)	52

## I. 令和4年度 地域提案型交通安全支援事業 実施概要

### 1. 事業の目的

本事業は、内閣府が地方公共団体の提案を受け、当該地域の実情を踏まえた上で、当該地域において必要な交通安全に資する事業を実施することにより、地域における自主的な交通安全活動を推進することを目的とする。

### 2. 事業の概要

都道府県、市町村、所轄警察署、教育委員会、中学校、PTA、高齢者団体及び交通ボランティア団体等との連携・協力の下、実施地区ごとに実行委員会を設置する。

実行委員会は、参加者の理解・共感を促し、地域の交通実態に合った参加・体験・実践型のプログラムを決定し、これを実施する。

プログラムの実施後には、実施結果等を踏まえて、今後の当該地域における交通安全活動がより効果的・効率的なものとなるよう、実行委員会としての意見を取りまとめる。

#### (1) プログラム実施期間

令和4年10月から11月までの間に実施

#### (2) 実施地区等

①兵庫県太子町、徳島県の2地区において実施

②実施地区は、都道府県からの提案内容に基づき、各地域の交通事故発生状況、交通課題、交通安全活動、実施後の効果等を考慮の上選定

#### (3) 参加者

①兵庫県太子町：会場の中学校の全校生徒 497名

②徳島県：三好地区居住の高齢者等 40名

#### (4) 実施方法

①実施地区ごとに実行委員会を設置し、各地区の実情に即したプログラム内容や参加方法等を検討し、プログラム当日の運営等を行った。

②プログラム実施後は、参加者及び実行委員を対象としたアンケート調査を実施するとともに、本事業を実施した結果を踏まえ、地域における交通安全活動の実施方法・内容等が今後より効果的かつ効率的なものとなるよう意見を取りまとめた。

③事業実施に際しては、都道府県、実施市町村及び地域において日常的に交通安全活動を行っている交通関係団体・機関（所轄警察署、教育委員会、中学校、PTA、高齢者団体及び交通ボランティア団体等）との連携を図り、協力を得て実施した。

### 3. 実施地区概要

#### (1) 実施地区・期日・会場等一覧

No.	開催県	実施市町村	実施期日	実施会場
1	兵庫県	太子町	11月14日(月)	太子町立太子西中学校
2	徳島県	—	10月13日(木)	三加茂自動車学校

#### (2) 実施地区の参加者数一覧

No.	開催県	実施市町村	参加者総数	内 訳
1	兵庫県	太子町	497名	太子西中学校生徒
2	徳島県	—	40名	三好地区高齢者等

## II. 実施地区の報告

### 兵庫県 太子町

#### ●事業の概要

##### 1. 事業名

太子町スケアードストレイト交通安全教室

##### 2. 主 催

内閣府、兵庫県太子町

太子町スケアードストレイト交通安全教室実行委員会

##### 3. 事務局

(一財) 日本交通安全教育普及協会

##### 4. 実施会場

太子町立太子西中学校

##### 5. 実施日時

令和4年11月14日(月) 午後2時25分～午後3時15分

##### 6. 参加者

太子町立太子西中学校 全校生徒 497名

##### 7. プログラム内容

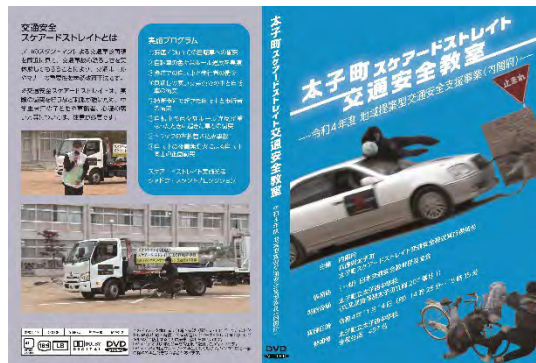
- ・開会(学校長挨拶、たつの警察署講話)
- ・スケアードストレイト交通安全教室
- ・閉会
- ・アンケート実施
- ・「スケアードストレイト交通安全教室」の撮影及びDVDの作成・配布

※DVDの配布は令和5年2月

##### 8. 実施体制

本事業は、地域の中学生の自転車事故の防止及び交通安全意識の向上を図るため、太子町役場と太子西中学校が中心となり関係機関と連携・調整の上、プログラムの企画・運営にあたった。

また、関係機関による今後の太子町内中学校等における交通安全指導に活用するため、スケアードストレイトの実施状況の記録DVDを作成し、配布した。



## 9. 実行委員会等開催経過

### ①事前打合せ

期日：令和4年9月20日（火）

会場：オンライン打合せ

協議事項：事業趣旨説明

実行委員会の設置について

スケアードストレイト実演内容の説明

### ②第1回実行委員会

期日：令和4年11月10日（木）

会場：太子町立太子西中学校

協議事項：事業について

役割分担、準備について

当日の開催判断方法の確認 等

### ③第2回実行委員会（事後）

期日：令和5年1月25日（水）

会場：太子町立太子西中学校

協議事項：スケアードストレイト交通安全教室実施報告

生徒アンケート集計結果報告

DVDの視聴

実行委員の意見交換

実行委員アンケート調査

## 10. 事後実行委員会総括（事務局まとめ）

### ①実施についての感想

- ・生徒アンケート結果から、「今回の教室についてどう感じたか」という設問については「とても良かった」「良かった」が約96%を占め、その理由については、「交通事故の再現は迫力があり、交通事故は身近に潜んでいることが理解できた」、「一時停止やヘルメットの大切さを再認識することができた」、「自身の普段の行動を振り返ることができ、今後気を付けようと思った」など、体験を通じて交通事故の怖さ、命の大切さに気付いてもらえたと考え

少数ではあるが、「普通」「良くなかった」と回答した生徒の理由を見ると、

「過激すぎるので実演は少し控えめにしてほしい」、「事故の危険性は理解できるが、トラウマになる人もいるのでは」などとなっており、交通事故の恐怖を強く感じ過ぎてしまったのではと推測され、伝わり方の難しさが感じられた。

## ②成果と課題・今後の取り組み

(成果)

- ・アンケート結果から、ほぼ全員が今回の交通安全教室の内容・ねらいを理解することができたと思われる。今後の交通安全への意識付けにもなり、十分な効果があった。
- ・スケアードストレイトは、生徒に対するインパクトがあり、交通安全意識の向上のために有効な手段であると思われるので、今後、他校においても実施が望まれる。

(課題・今後の取り組み)

- ・体験して感じたことを周囲で共有し、地域ぐるみで意識を高めることが重要。
- ・一度のみの体験ではなく、繰り返し交通安全を訴えることが求められる。
- ・過激な体験がトラウマにならないよう、実施後のフォローも大切。

## 11. 実施の様様



(校長先生の挨拶)



(警察署からの説明)



(時速 40km での自転車への衝突)



(生徒による模範走行)



(ルール違反が重なったときの衝突)



(生徒会長お礼の言葉)



## 12. 参加者等アンケート集計結果の概要

### 調査対象：参加者（全校生徒）、実行委員

#### 1. 生徒（回答者数：455名）

##### （1）交通安全について普段誰と話すか（複数回答）

家族が57.1%（260名）と最も多く、次いで友だちが31.0%（141名）であった一方、誰とも話さないとの回答が31.4%（143名）であった。（表1）

表1 誰と話すか（問1）

先生	31名	6.8%
家族	260名	57.1%
友だち	141名	31.0%
誰とも話さない	143名	31.4%
無回答	0名	0%

##### （2）今日の行事に参加しての感想

行事に参加して、生徒の78.7%（358名）が「とても良かった」、17.4%（79名）が「良かった」と回答し、両者で96.1%（437名）を占めた。（表2）

表2 今日の行事に参加して（問2）

とても良かった	358名	78.7%
良かった	79名	17.4%
普通	17名	3.7%
良くなかった	1名	0.2%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

#### 【理由】

##### とても良かった／良かった

- ・スタントマンの皆さんの演技が素晴らしく事故の恐怖が良く伝わった
- ・事故の再現は迫力があり、映像では出せないリアルな衝突音は怖かった
- ・いろいろな事故ケースと、その防止策についてわかりやすく説明してくれた
- ・話を聞くだけでは事故の怖さを十分理解できない
- ・交通事故の恐ろしさを知ることができた
- ・交通事故は身近に潜んでいることを知ることができた
- ・交通事故には色々なパターンがあることを知ることができた
- ・自転車に乗っていて危ない経験をしたことがあるので、この機会を作ってくれて感謝

- ・自分自身が人身事故に遭ったような気持ちになった
- ・事故を起こしたときの気持ちを想像すると交通ルールをしっかりと守ろうと思った
- ・交通事故は死や大きな怪我につながるという恐怖心が伝わった
- ・交通ルールやマナーを守ることが何よりも大切
- ・事故は怖いけど交通ルールを守れば事故が起きないことを学んだ
- ・どのような所で事故が起きやすいかを理解することができた
- ・一時停止やヘルメットの大切さを再認識することができた
- ・これからはヘルメット着用が努力義務化されることを知った
- ・通学も含め、自分が自転車に乗る時は今まで以上に気を付けようと思った
- ・自転車に乗っていても命を落とすことがあると実感した
- ・自分の普段の行動を振り返ることができ、今後絶対に気を付けようと思う

#### 普通

- ・過激すぎるので、実演は少し控えめにしてほしい
- ・事故の危険性は理解できるがトラウマになる人もいるのでは
- ・見るだけではなく生徒に体験するチャンスを与えてほしかった

### (3) 今日の行事に参加して感じたこと（複数回答）

行事に参加して感じたことについて、生徒の91.0%（414名）が「交通ルールや交通マナーを守ろうという気持ちが強くなった」、次いで86.3%（393名）が「道路でまわりの車や人に十分注意して行動しようという気持ちが強くなった」と回答した。（表3）

表3 行事に参加して感じたこと（問3）

交通ルールや交通マナーを守ろうという気持ちが強くなった	414名	91.0%
道路でまわりの車や人に十分注意して行動しようという気持ちが強くなった	393名	86.3%
交通安全についてもっと知りたいという気持ちが強くなった	184名	40.4%
ふだんから交通安全についてだれかと話そうという気持ちが強くなった	124名	27.3%
特に変わりはない	7名	1.5%
無回答	0名	0%

#### 【自由記述】

- ・普段の自分の行動を振り返ることができた
- ・今まで以上に交通ルール・マナーを守りたい
- ・小さなことでも自分ができることは実践しようと思う
- ・事故について知り、事故に遭わないよう行動したい
- ・家族に事故の怖さを伝え、皆で気を付けていきたい
- ・ヘルメットは命を守る大切なものであることを知った
- ・壊れた自転車を見て、あれが自分だったらと思うと、より気を付けようと思う
- ・自転車も簡単に人を傷つけてしまうことを理解できた
- ・横断歩道を渡る際、前後左右をしっかりと確認、車の後ろを渡らない

- ・夜間の外出時も気を付けようと思う
- ・時間のないときこそ、少しの距離でも気を付けるべきと感じた

#### (4) 今後もスケアードストレイト交通安全教室のような行事に参加したいか

今後の行事へ参加意欲について、生徒の72.1% (328名) が「参加したい」と回答した一方、「参加したくない」とする回答が5.7% (26名) であった。(表4)

表4 今後の参加意欲 (問4)

参加したい	328名	72.1%
参加したくない	26名	5.7%
どちらともいえない	101名	22.2%

#### 【理由】

##### 参加したい

- ・交通事故の現状についてもっと知りたい
- ・世界中の人たちが安全に暮らすためにとっても良い
- ・自身の身、他人の身を守るために学びたい
- ・登下校時により気を付けようと思える
- ・交通事故の特徴、その防止方法を学びたい
- ・身近に潜んでいる危険を確かめたい
- ・自転車だけでなく、自動車の交通事故についても知りたい
- ・自分がどう行動すべきか考えることができる
- ・多くの周りの人に事故の危険性を知ってもらいたい
- ・周りの人と事故の恐怖感を共感し合い、皆で気を付けたい
- ・気づいていないだけで周囲に迷惑をかけているかもしれない
- ・常に危機感を持って生活していきたい
- ・いろいろなことを体験することで、自分や皆の命を守ることができるかも
- ・事故を未然に防ぐことのできる知識を周りの人に教えたい
- ・自転車通学をしているため気を引き締めたい
- ・自分の身に关わることで多くの情報を持っている方が良い
- ・親世代と一緒に参加し、一緒に学びたい
- ・忘れていたり、まだ知らないこともあるかもしれない
- ・自分が加害者にならないためにもっと学びたい
- ・交通ルールやマナーを知ることの楽しさが生まれた
- ・大人に近づいているため、しっかり学び実行したい
- ・学んだことを忘れていたり考えが甘くなると事故を起こしてしまいそう

##### 参加したくない

- ・怖すぎて、迫力がありすぎて、もう見たくない
- ・事故再現の様子はあまり見たくない

- ・恐怖でトラウマになりそうで、ダミー人形を使った教室にしてほしい

**どちらともいえない**

- ・交通安全についてもっと知りたいが実際に見ると恐怖感がある
- ・自転車に乗ることが怖くなるかもしれない
- ・交通事故を見るのが少し苦手
- ・もっと自転車に安全に乗るために勉強したい
- ・これから事故が起きてほしくないし、その対策を学びたい
- ・もともと交通マナーを守っている人には意識の変化はない
- ・一度見たら忘れない

## 2. 実行委員（回答者数：10名）

### （1）実行委員の属性

実行委員の所属は、行政が40%（4名）で、警察、中学校関係者、教育委員会がそれぞれ20%（2名）であった。（表5）

表5 実行委員の所属（問1）

	実行委員
行政	4名
	40%
警察	2名
	20%
中学校	2名
	20%
教育委員会	2名
	20%
交通ボランティア	0名
	0%
総 数	10名
	100%

### （2）事業の評価について

事業全体の評価について、実行委員の100%（10名）が「大変良かった」、「良かった」と回答した。（表6）

表6 事業全体の評価（問2）

大変良かった	8名	80%
良かった	2名	20%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

### （3）本事業で達成できたと思うことについて（複数回答）

本事業を実施し、参加者に期待したことで、達成できたと思うことについて、実行委員の100%（10名）が「交通ルール・マナー全般の大切さを理解し、自らの命を守ろうという気持ちが高まる」、次いで80%（8名）が「自転車の安全な乗り方全般の大切さを理解し、正しく乗ろうという気持ちが高まる」と回答した。（表7）

表7 達成できたと思うこと（問3）

交通ルール・マナー全般の大切さを理解し、自らの命を守る	10名	100%
自転車の安全な乗り方全般の大切さを理解し、正しく乗る	8名	80%
交通社会の一員として、他者に対する思いやりやゆずり合いの気持ち	3名	30%
自転車に関する交通ルールや安全確認の仕方の理解	5名	50%
自転車乗用時のヘルメット着用や自転車の事前点検の大切さ	4名	40%
家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知る	3名	30%
その他	0名	0%

### （4）交通安全活動の実践の場としての、本事業の評価

- ① 本事業に、実行委員として参加したことで、交通安全教育などの知識や技術向上の機会となったかについて、実行委員の90%（9名）が「大変役立った」、と回答した。（表8）

表8 知識や技術向上の機会となったか（問4-1）

大変役立った	9名	90%
役立った	0名	0%
ふつう	1名	10%
役立たなかった	0名	0%
全然役立たなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

◇その理由

- ・心に刻むことができる、一度見たら忘れられない
- ・事故がどのように起こるか全体像を見ることができた
- ・学校の先生、県職員の方と意見交換をすることができた
- ・新たな交通安全教室の検討に役立ち、交通マナーの理解が深まった
- ・自分自身の学びの場となった
- ・趣旨に触れたことにより一層深く大切さを感じ取ることができた
- ・他の学校等での交通安全教室に活かすことができるため
- ・今後の交通安全教室で体験（見学）した内容を話すことができる
- ・運営等において初めての経験が多かったため

- ② 本事業に参加したことによって、有益だったことについて（複数回答）  
 実行委員の70%（7名）が「交通安全に関する知識の習得」、60%（6名）が「参加者・実行委員の交通安全意識の向上」と回答した。（表9）

表9 有益だったと思うこと（問4-2）

交通安全に関する知識の習得について	7名	70%
交通安全教育を行う際の指導方法について	3名	30%
交通安全教室実施のための企画立案について	4名	40%
交通安全教室の運営について	1名	10%
参加者・実行委員の交通安全意識の向上について	6名	60%
行政や警察、他団体との連携について	3名	30%
その他	0名	0%
無回答	0名	0%

- ③ 本事業に参加したことにより、今後の交通安全活動に活用される予定について、  
 実行委員の90%（9名）が「活用していきたい」と回答した。（表10）

表10 今後の活用予定について（問4-3）

活用していきたい	9名	90%
一部活用していきたい	1名	10%
どちらともいえない	0名	0%
活用することは難しい	0名	0%
無回答	0名	0%

- ④ ③回答の理由

- ・交通事故の怖さを強く感じ、一度見たら忘れないレベルだったのは価値がある
- ・「スケアード」という言葉で、中学生には抑止力になり得る
- ・今までの交通安全教室とは違うスタイルであったため

- ・交通安全を進める上で、大人の交通安全教室にも活用できる
- ・交通安全活動は、関係者が連携し、地域ぐるみで推進するものであるため
- ・どうすれば危機意識、安全意識を向上させられるか理解できた
- ・他校での交通安全教室で映像を活用した教室を実施したい
- ・事故再現を見たり、実際の音を聞くことは交通事故防止を啓発するものとしては大変有意義

⑤ 本事業の実施あたり、改善すべき点（自由記述）

- ・事前準備にもう少し期間が必要
- ・予算の補助があると嬉しい
- ・実施後の指導方法について助言いただきたい
- ・実行委員会のスケジュール調整が難しい
- ・恐怖心を持つ子どもに対し、別の手法での指導を検討してもよい
- ・見学者の人数、見学位置など

(5) 本事業以外で、交通安全活動に必要な知識や技術を向上させるためには、どのような機会が必要か。（自由記述）

- ・運転免許証の講習に近い形での実施
- ・自分の通学ルートで注意する点などを学校で指導する
- ・見るだけでなく、具体的なイメージで見せる機会が有効
- ・警察官による指導
- ・実演していただいた事例をリーフレット等にまとめ振り返り易くする
- ・各年齢層に応じた参加・体験型の交通安全教室
- ・自動車教習所を活用した交通安全教室
- ・危険予知トレーニングで自分で考えさせたり、関係機関と情報共有を行う
- ・研修や広報の実施

(6) 今回、本事業に取り組んだことで、あなた自身に意識の変化や再認識したことがあったか。（自由記述）

- ・交通マナーを高めたい
- ・中学生には被害者はもちろん、加害者にもなってほしくない
- ・中学生や小学生であっても、自転車に乗っていれば加害者になり得ることを再認識した
- ・自分自身も交通ルール・マナーの再認識ができた
- ・実演に勝るものはないことを再認識した
- ・ちょっとした意識、考え方で交通事故につながることを
- ・スタントマンの演技が見学者の心に強く訴えることができること

(7) 本事業に対する意見・要望・感想（自由記述）

- ・どのようにすればこのような機会を得られるか知りたい

- ・また実施してほしい
- ・大変貴重な、有意義な機会をありがとうございました
- ・効果的であるので回数を増やしてほしい



## 徳島県

### ●事業の概要

#### 1. 事業名

三好地区高齢者交通安全ふれあいフェア

#### 2. 主 催

内閣府、徳島県、三好市、東みよし町、  
三好地区高齢者交通安全ふれあいフェア実行委員会

#### 3. 事務局

徳島県、(一財) 日本交通安全教育普及協会

#### 4. 実施会場

三加茂自動車学校

#### 5. 実施日時

令和4年10月13日(木) 午後1時30分～午後3時30分

#### 6. 参加者

三好地区居住の高齢者等 40名

#### 7. プログラム内容

- ・開会(主催者挨拶等)
- ・スケアード・ストレイト見学
- ・体験学習
  - 体験① シートベルトコンビンサー体験(交通安全講習)
  - 体験② サポートカー体験
- ・反射材効果確認コーナー
- ・閉会(三好警察署講評、アンケート実施等)

#### 8. 実施体制

本事業は、地域の交通事故発生状況、交通課題等を考慮した内容とするため、徳島県のほか、三好地区において交通安全教育や交通安全活動等に携わっている関係団体等が中心となってプログラムの企画・運営にあたった。

#### 9. 実行委員会等開催経過

- ①事前打合せ

期日：令和4年9月5日（月）

会場：オンライン

協議事項：趣旨説明

実施主体の検討

実施日の検討及び実施会場の確認

参加予定者の検討

実施プログラムの検討

実施準備に関する確認

## ②第1回実行委員会

期日：令和4年9月28日（水）

会場：徳島県消費者生活課

三加茂自動車学校

協議事項：実施日・実施会場の決定

イベント名称の検討

実施概要の確認

実施プログラムの検討

参加予定者の検討

参加者募集方法の検討

配布啓発品の検討

参加者アンケート調査票の検討

## ③第2回実行委員会（事後）

期日：令和4年12月6日（火）

会場：徳島県消費者生活課

協議事項：事業実施報告

参加者アンケート集計結果

反省と今後の課題について（意見交換）

実行委員へのアンケート調査

## 10. 事後実行委員会総括（事務局まとめ）

### ①実施についての感想

- ・ 県西部（過疎地）でのスケアード・ストレイトの実施は効果的
- ・ 参加の高齢者は改めて交通事故の怖さを再認識することができた

- ・ 反射材効果再確認コーナーの実施は、場所、周知方法等もう少し工夫が必要

## ②成果と課題・今後の取り組み

- ・ 交通事故撲滅のためには、何よりも関係機関・団体との連携が重要
- ・ 交通安全教室は一回のみの実施でなく、継続して行うことが大切
- ・ 参加者の経験を、自身の家庭、友人等に積極的に周知することが大切
- ・ 交通安全教室に参加しない人に、いかに啓発を行うかが課題

## 11. 実施の様相



( 受付 )



( 開会式 )



( スケアード・ストレイト )



( スケアード・ストレイト )



( スケアード・ストレイト )



( スケアード・ストレイト )



( スケアード・ストレイト )



( スケアード・ストレイト )



( 交通安全講習 )



( シートベルトコンビンサー体験 )



( サポートカー体験 )



( サポートカー体験 )

## 12. 参加者等アンケート集計結果の概要

### 調査対象：参加者（高齢者等）、実行委員

#### 1. 参加者（回答者数：38名）

##### （1）参加者の属性

###### ① 性別

参加者の性別は男性が63.2%（24名）、女性が36.8%（14名）であった。（表1）

表1 参加者の性別内訳（問1-1）

男性	24名	63.2%
女性	14名	36.8%
総数	38名	100.0%

###### ② 年齢

参加者の年齢別では70代が50.0%（19名）、次いで80代が42.1%（16名）、60代が7.9%（3名）であった（表2）

表2 参加者の年齢別内訳（問1-2）

60代	3名	7.9%
70代	19名	50.0%
80代	16名	42.1%
無回答	0名	0%
総数	38名	100.0%

###### ③ 運転免許保有の有無

参加者の運転免許保有の有無は、保有者が73.7%（28名）で、無回答が26.3%（10名）であったが、返納したとの回答はなかった。（表3）

表3 運転免許保有の有無（問1-3）

あり	28名	73.7%
なし	0名	0%
返納した	0名	0%
無回答	10名	26.3%
総数	38名	100.0%

## (2) 今日の行事に参加したきっかけ（複数回答）

今日の行事に参加したきっかけは、「町会・老人会・安全協会からの案内によって」が97.8%（37名）、「交通安全に興味があった」が7.9%（3名）であった。（表4）

表4 参加の動機（理由）（問2：複数回答）

町会・老人会・安全協会からの案内によって	37名	97.8%
交通安全に興味があった	3名	7.9%
知人に誘われた	0名	0%
家族に勧められた	0名	0%
おもしろそうだった	0名	0%
その他（実際にスクエアを見てみたかった）	1名	2.6%

## (3) 今日の行事に参加して

### ① 感想

今日の行事に参加して、参加者の89.5%（34名）が「大変良かった」、次いで10.5%（4名）が「良かった」と回答し、両者で100%（38名）を占めた。（表5）

表5 今日の行事に参加して（問3-1）

大変良かった	34名	89.5%
良かった	4名	10.5%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

### ② 各プログラムの評価

表6 スケアード・ストレイト（問3-2）

大変良かった	33名	86.8%
良かった	5名	13.2%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然よくなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

表7 サポートカー試乗（問3-2）

大変良かった	33名	86.8%
良かった	5名	13.2%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

表8 シートベルトコンビンサー（問3-2）

大変良かった	30名	79.0%
良かった	5名	13.2%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	3名	7.8%

表9 反射材効果の再確認（問3-2）

大変良かった	19名	50.0%
良かった	10名	26.3%
ふつう	2名	5.2%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	7名	18.5%

#### （4）参加しての今の気持ち

行事に参加しての今の気持ちについて、全ての項目で参加者の80%以上が「気持ちが高まった」と回答した（表10）。

表10 各項目についての今の気持ち（問4）

	はい		いいえ		無回答	
	名	%	名	%	名	%
交通ルールや交通マナーを守らなければいけないという気持ちが高まったか	37名	97.4%	0名	0%	1名	2.6%
道路状況や交通状況などに十分注意して行動しようという気持ちが高まったか	37名	97.4%	0名	0%	1名	2.6%
家族で交通安全について日常的に話し合うことが大切だという気持ちが高まったか	32名	84.2%	1名	2.6%	5名	13.2%
友人や仲間と交通安全について話し合おうという気持ちが高まったか	32名	84.2%	1名	2.6%	5名	13.2%
地域の子どもたちや地域の皆さんを、交通事故から守ろうという気持ちが高まったか	36名	94.8%	0名	0%	2名	5.2%
交通安全のためにあなた自らが地域で何か役割を果たそうという気持ちが高まったか	37名	97.4%	0名	0%	1名	2.6%
これからも機会があれば交通安全イベントに参加しようという気持ちが高まったか	37名	97.4%	0名	0%	1名	2.6%



### (5) 開催日（曜日を含む）について

開催日について、参加者の94.8%（36名）が「良かった」と回答したが、できれば休日の開催を希望との意見もあった。（表11）

表11 開催日（曜日を含む）について（問5-1）

良かった		良くなかった		無回答	
36名	94.8%	0名	0%	2名	5.2%

### (6) 行事全体の時間の長さについて

行事全体の時間の長さについて、参加者の89.5%（34名）が「良かった」と回答した。（表12）

表12 行事全体の時間の長さについて（問5-2）

良かった		長かった		短かった		無回答	
34名	89.5%	1名	2.6%	1名	2.6%	2名	5.2%

### (7) 行事の周知方法について

行事の周知方法について、参加者の94.8%（36名）が「良かった」と回答した。（表13）

表13 行事の周知方法について（問5-3）

良かった		良くなかった		無回答	
36名	94.8%	0名	0%	2名	5.2%

### (8) プログラムの数について

プログラムの数について、参加者の94.8%（36名）が「良かった」と回答した。（表14）

表14 プログラム（ブース）の数について（問5-4）

良かった		多かった		少なかった		無回答	
36名	94.8%	1名	2.6%	1名	2.6%	0名	0%

### (9) プログラムの中での説明の仕方について

各プログラムの中での説明の仕方について、参加者の92.2%（35名）が「良かった」と回答した。（表15）

表15 各プログラムの中での説明の仕方について（問5-5）

良かった		良くなかった		無回答	
35名	92.2%	1名	2.6%	2名	5.2%

## (10) 全体の流れ（進行）について

全体の流れ（進行）について、参加者の94.8%（36名）が「良かった」と回答し、スタントマンの真剣な実演には感動したとの感想もあった。（表16）

表16 参加者の数について（問5-6）

良かった		良くなかった		無回答	
36名	94.8%	0名	0%	2名	5.2%

## 2. 実行委員（回答者数：8名）

### (1) 実行委員の属性

実行委員の所属は、交通安全母の会、交通指導員がそれぞれ12.5%（1名）、行政、その他がそれぞれ37.5%（3名）であった。（表17）

表17 実行委員の所属・種別（問1）

	実行委員
老人クラブ・老人会	0名
	0%
町内会・自治会	0名
	0%
交通安全協会	0名
	0%
交通安全母の会	1名
	12.5%
交通指導員	1名
	12.5%
行政	3名
	37.5%
警察	0名
	0%
その他	3名
	37.5%
総数	8名
	100%

### (2) 事業のプログラムの評価について

①プログラム全体の評価について、実行委員の87.5%（7名）が「大変良かった」、12.5%（1名）が「良かった」と回答した。（表18）

表 18 プログラム全体の評価 (問 2-1)

大変良かった	7名	87.5%
良かった	1名	12.5%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

②各プログラムの評価

表 19 スケアード・ストレイト (問 2-2)

大変良かった	7名	87.5%
良かった	1名	12.5%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

表 20 サポートカー試乗 (問 2-2)

大変良かった	2名	25.0%
良かった	5名	62.5%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	1名	12.5%

表 21 シートベルトコンビンサー (問 2-2)

大変良かった	3名	37.5%
良かった	4名	50.0%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	1名	12.5%

表 22 反射材効果の再確認（問 2-2）

大変良かった	3名	37.5%
良かった	4名	50.0%
ふつう	0名	0%
良くなかった	0名	0%
全然良くなかった	0名	0%
無回答	1名	12.5%

### （3）本事業で達成できたと思うことについて（複数回答）

本事業を実施し、参加者に期待したことで、達成できたと思うことについて、実行委員の 75%（6名）が「交通ルール・マナーの大切さを理解し、自らの命を守ろうという気持ちが高まる」、次いで 62.5%（5名）が「交通事故の恐ろしさを再認識し、自らが安全に行動しようとする気持ちが高まる」と回答した。（表 23）

表 23 達成できたと思うこと（問 3）

交通ルール・マナーの大切さを理解し、自らの命を守ろうという気持ちが高まる	6名	75.0%
交通事故の恐ろしさを再認識し、自らが安全に行動しようという気持ちが高まる	5名	62.5%
今日の行事がきっかけとなって、地域の交通安全活動への参加意欲が高まる	3名	37.5%
家庭や地域の中で、交通安全について話し合う大切さを知ってもらう	1名	12.5%
その他	0名	0%

### （4）交通安全教育等の知識・技術の向上について

本事業に、実行委員として参加いただいたことで、交通安全教育などの知識や技術向上の機会となったかについて、実行委員の 87.5%（7名）が「大変役立った」、「役立った」と回答した。（表 24）

表 24 知識や技術向上の機会となったか（問 4）

大変役立った	5名	62.5%
役立った	2名	25.0%
ふつう	1名	12.5%
役立たなかった	0名	0%
全然役立たなかった	0名	0%
無回答	0名	0%

### （5）本事業に参加したことによって、有益だったことについて（複数回答）

実行委員の 62.5%（5名）が「交通安全に関する知識の習得」、50.0%（4名）が「交通安全教育を行う際の指導方法」、「交通安全活動の実施のための企画立案」と回答した。（表 25）

表 25 有益だったと思うこと（問 5）

交通安全に関する知識の習得について	5名	62.5%
交通安全教育を行う際の指導方法について	4名	50.0%
交通安全活動の実施のための企画立案について	4名	50.0%
交通安全活動の運営について	2名	25.0%
交通安全活動で使用する資器材等の調達について	0名	0%
行政や警察、他団体との連携について	2名	25.0%
その他	0名	0%
無回答	0名	0%

**（6）本事業の今後の交通安全活動への活用について**

本事業に参加いただいたことにより、今後の交通安全活動に活用される予定について、75.0%（6名）が「活用していきたい」と回答した。（表 26）

表 26 今後の活用予定について（問 6）

活用していきたい	6名	75.0%
一部活用していきたい	1名	12.5%
どちらともいえない	1名	12.5%
活用することは難しい	0名	0%
無回答	0名	0%

**（7）今後同様の体制での交通安全活動の実施について**

本事業への参加を契機として、今後、同様（又は類似）の体制で交通安全活動を実施したいと思うか、またそれは現実的に可能かについて、実行委員の75.0%（6名）が「実施したいし、可能だと思う」と回答した。（表 27）

表 27 継続実施に向けての意欲と可否（問 7）

実施したいし、可能だと思う	6名	75.0%
実施したいが、困難だと思う	0名	0%
実施したいと思わない	1名	12.5%
どちらともいえない	1名	12.5%
無回答	0名	0%

**（8）本事業以外で、交通安全活動に必要な知識や技術などを向上させるためにはどのような機会が必要だと思うか（自由記述）**

- ・交通安全講習会を繰り返し、実際に身に付くようにする
- ・高齢者の運転寿命を延ばすために、自分の運転を知る機会を現在の高齢者講習よりも短い期間で定期的実施する

- ・小規模であっても同様の事業を継続すること

**(9) 今回、本事業に取り組んだことで、あなた自身に意識の変化や再認識したことがあったか（自由記述）**

- ・交通事故の恐ろしさを改めて知った
- ・具体的な事故事例を目視、体験することにより理解が深まった
- ・今回の参加者募集にあたり、皆さん交通安全に対して高い意識を持っている
- ・多くの高齢者は講習会に参加し、できるだけ長く運転できるよう努力されている

**(10) 本事業に対する意見・要望・感想について（自由記述）**

- ・県西部の多くの高齢者は、本格的なスタントやサポートカー体験は初めてだと思う。このような機会が多く設けられ、高齢ドライバーの運転寿命が少しでも延び、過疎地でも不便なく生活できれば良いと感じた